

手賀沼通信(第333号)

Eメール : nittay@jcom.home.ne.jp
<http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai>

<http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/> 新田良昭
<http://tegatu2.web.fc2.com>

今日は手賀沼通信ブログからの抜粋です。

「老人の独り言」にシリーズとして「プロ野球の歴史」を取り上げ、テーマごとにまとめてきました。それを順番に載せていきます。

プロ野球は太平洋戦争が終わった翌年の1946年に再開されました。私はそれ以来の野球ファンです。小学校4年生でした。

それ以後のプロ野球の歴史を追っかけ行きます。私の記憶を中心にテーマを決め、ネットで調べたデータでまとめました。

私流に勝手にテーマを決めたので偏ったところがあります。ジャイアンツファンなので、巨人やセリーグの記事が多くなっています。お許しください。

我が家は一家そろって野球ファンです。私は巨人とドジャース、妻はドジャースを応援しています。

長女一家は全員ロッテファンで、よくマリーン球場に通っており、佐々木朗希投手の完全試合も球場で見ていました。

長男一家は全員日本ハムファンで、北海道や大阪の球場にも応援に出かけました。

ブログのタイトルには「老人の独り言」が入っていますが、煩雑なので外しました。プロ野球の歴史としての番号を入れました。

手賀沼通信ブログ抜粋—プロ野球の歴史シリーズ

プロ野球の歴史—1 1リーグ時代 (N.O. 1849) (2024年9月7日)

太平洋戦争後のプロ野球は1946年(昭和2

1年)に始まりました。私が小学校4年生の時です。

はっきりとは覚えていませんが私が巨人ファンになったのは4年生か5年生のころからではないかと思います。情報源はラジオ放送と新聞でした。

そのころは8チームからなる1リーグでした。1950年に2リーグになりました。1リーグ最後の1949年は次の8チームです。

- ・読売ジャイアンツ
- ・阪神タイガース
- ・中日ドラゴンズ
- ・太陽ロビンス
- ・南海ホークス
- ・阪急ブレーブス
- ・東急フライヤーズ
- ・大映スターズ

1950年には最初の4チームがセントラルリーグに、あとの4チームがパシフィックリーグに移りました。

1リーグ時代に記憶に残っているのは、巨人の川上哲治一塁手、青田昇外野手、千葉茂二塁手、阪神の藤村富美男三塁手、東急の大下弘外野手、南海の別所毅彦投手などです。

川上は打撃の神様と言われ、のちの長嶋や王と同じように、打ってほしい時に打ってくれる選手でした。強烈な印象として残っているのは、1949年の南海ホークスとの試合で、9回裏逆転サヨナラ満塁ホームランを打って6-5で勝った試合です。当時史上初でした。

川上と一緒にホームラン王になった青田、ライト打ちで鳴らした千葉、物干しがおと言われた長いバットでホームラン王の藤村、川上の赤バットに対する青バットの大下、剛速球の別所、は忘れられません。そのほかにも名選手は大勢いますが省略させていただきます。

シーズンの最後には東西対抗戦がありました。今のオールスター戦に代わるものです。関東の4チームから選ばれた選手のチームと中日と関西3

チームから選ばれた選手のチームで戦いました。これも面白かった思い出です。

娯楽の少なかった少年時代、私にとって野球は映画とともに最大の楽しみでした。

プロ野球の歴史－2 2つのリーグの誕生 (NO. 1851) (2024年9月13日)

1950年、プロ野球はセントラルリーグとパシフィックリーグに分かれました。

2つのリーグが誕生したのは、いろいろ複雑な事情がありましたが、要はプロ野球が国民の娯楽として注目されるようになったため、球団を持ちたいという企業が増えたためです。戦後の惨状から、国民も企業も回復しつつありました。

1950年の両リーグのチーム構成は次の通りです。

セントラルリーグ

- ・読売ジャイアンツ
- ・阪神タイガース
- ・中日ドラゴンズ
- ・松竹ロビンス
- ・大洋ホエールズ
- ・国鉄スワローズ
- ・広島カープ
- ・西日本パイレーツ

パシフィックリーグ

- ・南海ホークス
- ・阪急ブレーブス
- ・東急フライヤーズ
- ・大映スターズ
- ・毎日オリオンズ
- ・西鉄クリッパーズ
- ・近鉄パールズ

新チームが誕生するにあたっては激しい引き抜き合戦が行われました。ショックだったのは阪神の別当薰など有力5選手が毎日に移ったことです。

毎日オリオンズはこの年、その5選手と都市対抗の名門星野組から獲得した火の玉投手荒巻淳などの活躍で、松竹ロビンスを日本シリーズで破りました。

その後いろいろな経緯を経て、セ・リーグは読売、阪神、中日、広島、ヤクルト、DeNAの6チームになりました。

最初の4チームは最初から変わりませんが、ヤクルトは国鉄から、DeNAは大洋と松竹から変ってベイスターズになりました。

パ・リーグはソフトバンク、オリックス、ロッテ、日本ハム、西武、楽天の6チームになりました。

ソフトバンクは南海から、オリックス・バッファローズは阪急と近鉄から、ロッテ・マリーンズは毎日と大映から、日本ハム・ファイターズは東急から、西武ライオンズは西鉄と西日本から変わりました。チームの愛称名があるのはチーム名も変わったところです。

楽天ゴールデンイーグルスは、2005年にパ・リーグでリーグを廃止して1リーグに統一するという騒動が起こったときにそれを阻止するために新しく生まれた球団です。

2リーグ制になったときは観客動員数は両リーグでそれほど変わらなかったのですが、次第にパ・リーグの観客が減少し経営が成り立たなくなった球団が増えたため、一部の球団で1リーグに戻す動きが出てきました。

2005年にその動きを止めるため、楽天が生まれて2リーグ制で行くことが再確認されて以後、球団経営のやり方が見直されパリーグの観客が劇的に増えました。

今はWBCで日本が優勝したり、アメリカの大谷選手の活躍などもあって、プロ野球の人気が一層高まっています。

プロ野球の歴史－3 フランチャイズ球場－1 (NO. 1864) (2024年11月29日)

プロ野球12球団はそれぞれの球団のフランチャイズ球場を持っています。その歴史をたどってみましょう。

2度に分け、1回目はドーム球場の球団です。

最初にドーム球場を持ったのは読売ジャイアンツです。1988年東京ドームが後楽園競輪場の跡地に完成しました。日本初のドーム球場です。アメリカのメジャーリーグでは1965年テキサス州ヒューストンに世界初のドーム球場アストロドームが完成して、ヒューストン・アストロズのホーム球場となっていました。東京ドームはそれ

を見習ったのではないかと思われます。

ジャイアンツは後楽園球場から東京ドームに移りました。雨風にも暑さ寒さにも関係なく観戦ができる快適な球場です。後楽園球場は比較的簡単にチケットが買えましたが、東京ドームの巨人戦のチケットはプラチナチケットに変わりました。

2番目は1993年のソフトバンクの福岡ドームです。日本で初めて開閉式の屋根を持つ球場です。

3番目は1997年に完成した名古屋ドームと大阪ドームです。

中日ドラゴンズは中日球場から名古屋ドームに拠点を移しました。

大阪ドームは完成時は近鉄バッファローズの本拠地でした。2004年にオリックス・ブルーウェーブが近鉄バッファローズを吸収合併して、オリックス・バッファローズの球場になったのです。

5番目は1999年に改造した西武ドームです。1979年に完成した西武球場は福岡平和台球場から西武に移ったライオンズの本拠地でした。当初は屋根のない球場でしたが、1999年に屋根を付けドーム球場に改造しました。屋根とスタンドの間の壁はなく、空調もありません。ドーム球場としては中途半端な感じです。

6番目は2023年に完成したエスコンフィールドの日本ハムです。開閉式の屋根を持った遊び心満天の最新のドーム球場です。日本ハムは2004年に東京から、2001年に建設された札幌ドームに本拠地を移しました。そして昨年エスコンフィールドに移ったのです。理由は札幌ドームが札幌市の所有でサッカーや他のイベントと競合することや独自の収益が得られないことなどから、自由に使える自社関連のエスコンフィールドに本拠地を移すことになったようです。

今はプロ野球の半数の球団、最北と最南の球団がドーム球場を使用しています。

プロ野球の歴史－4 フランチャイズ球場－ 2 (NO. 1865) (2024年12月3日)

フランチャイズ球場その2はドーム球場を持たない6球団です。

12球団を通して長く同じ球場を持っているのは阪神タイガースで、ご存じ甲子園球場です。タ

イガースは球団創設の1935年から甲子園球場を本拠地としています。甲子園と言えばタイガースと春夏の高校野球で代表される球場になっています。1991年にラッキーゾーンが撤去され、ホームランが減りましたが、球場本来の姿となりました。2007年から2010年にかけては大規模な改修が行われました。

一方フランチャイズ球場をダイナミックに変えたのがロッテマリーンズです。チーム名も変えました。チームは、毎日オリオンズ→毎日大映オリオンズ→東京オリオンズ→ロッテオリオンズ→千葉ロッテマリーンズと変わりました。フランチャイズ球場は、後楽園球場（東京都）→東京スタジアム（東京都）→宮城球場（宮城県）→川崎球場（神奈川県）→マリーンスタジアム（千葉県）と変わりました。

マリーンスタジアム以外は球場そのものがなくなっています。特に東京スタジアムは1962年に開場しましたが、わずか10年後の1972年に閉場しました。映画の大映の永田雅一氏が作った球場です。当時私は三井生命我孫子寮に住んでおり、毎日の通勤の常磐線電車から東京スタジアムとおぼけ煙突を眺めながら通ったものです。宮城球場は改修前の球場で、仙台に転勤して住んでいたわが家からはるか遠くの球場の明かりが見えていました。老朽化した川崎球場からマリーンスタジアムに移るときロッテマリーンズに球団名を変えました。

楽天は改修済みの宮城球場を本拠地にしました。仙台駅から球場につながる道路も球場の改修に合わせてきれいに整備したのではないかと思います。

D e N Aベイスターズも球団名がいろいろ変わりました。1950年発足した大洋ホエールズが松竹ロビンスと合併、洋松ロビンス、横浜ベイスターズを経て、2012年D e N Aベイスターズとなりました。フランチャイズ球場は当初は確定していなかったようですが、1955年に横浜公園内の球場を本拠地としてから川崎球場を経て1978年横浜球場がフランチャイズ球場となりました。

ヤクルトスワローズは1964年本拠地を後楽園球場から神宮球場に変えています。ヤクルトスワローズは1950年国鉄スワローズとして誕生しました。その後サンケイスワローズ、サンケイアトムズ、ヤクルトアトムズと名前を変え、19

74年ヤクルトスワローズとなりました。

広島カープは、巨人、阪神、中日、楽天、などと同じく、当初から名前を変えていない球団です。フランチャイズ球場は広島市民球場から、2009年マツダスタジアムに変わりました。

調べていくうち、球団名も球団オーナーも球場もプロ野球の歴史の中では大きく変わっていることがわかりました。

プロ野球の歴史－5 水原監督、三原監督、
鶴岡監督（N.O. 1868）（2024年12月17日）

1950年、プロ野球にセントラルリーグとパシフィックリーグの2つのリーグが誕生しました。

その初期に活躍したのが、水原茂（円裕）、三原修（脩）、鶴岡（山本）一人の3人の監督です。

水原茂 三原修 鶴岡一人

- ・生年 1909 1911 1916
 - ・出身中学 高松商業 高松中学 広島商業
 - ・出身大学 慶應大 早稲田大 法政大
 - ・ポジション 内野手 内野手 内野手
 - ・チーム 巨人、東映 巨人、西鉄 南海
中日 大洋、近鉄
ヤクルト
 - ・リーグ優勝 9回 5回 9回
 - ・日本一 5回 4回 2回
 - ・参考 日本一で 日本一で 監督勝数
対鶴岡5勝1敗 対水原3勝0敗 歴代1位

上の経験から水原と三原は生涯のライバルだったことがわかります。

高松商業と高松中学は香川県の中等野球のライバル校でした。今は高校野球に変わりましたが、現在も続いているようです。大学も東京六大学のライバル校でした。主なポジションは水原が三塁手、三原は二塁手でした。水原が投手を務めたとき、三原がホームスチールを成功させています。

水原茂は1949年シベリア抑留から帰還し、最初に1950年から巨人の監督を務めました。それまで三原が巨人の監督でしたが、結果的に水原が三原を追い出したような形になりました。

水原の巨人は1951年からの日本シリーズで鶴岡監督の南海に3年連勝して、1年おいてまた鶴岡の南海に勝っています。

ところがそのあと不運が待っていました。西鉄に移った三原監督が巨人を3年連続で破ったのです。巨人は1956、1957年と連敗した後、1958年は新加入の長嶋の活躍もあって、日本シリーズも3連勝しました。水原監督は安心したのか4戦目が雨で中止になったとき、スポーツ新聞でオフのゴルフのことなどを話題にしていました。

ところが西鉄にはあの稻尾投手がいたのです。この雨も流れを変えました。21歳の稻尾投手の活躍で、西鉄が4連勝し水原の夢は消えました。稻尾投手は7戦のうち6試合に登板、4試合に完投、4勝を上げました。「神様、仏様、稻尾様」という言葉が生まれました。

鶴岡監督は南海一筋でした。巨人に日本シリーズで4回敗れた後、1959年に5回目のチャンスが回ってきました。その時は立教大学で長嶋茂雄と同期だった杉浦忠投手の活躍により4連勝しやっと巨人に勝つことができました。

2リーグ初期の3大監督は数々のドラマを見せてくれました。

今年は戦後80年です。私の野球ファン歴もほぼ80年と言えます。

四国の田舎育ちであったため、プロ野球は初めて球場で見たのは、上京して大学生になってからでした。

それまではもっぱらラジオでの中継放送を聞いて楽しみました。最初はNHKしかなく、それも毎日放送されたわけではありません。巨人戦の放送があるときは、ラジオにかじりついて聞いたのを覚えています。

最初に生で試合を見たのは、大学生の時でゴルデンウィークに後楽園球場で見た試合です。まだ川上選手が現役の時でした。当時はその場で簡単にチケットが買える時代でした。

長嶋選手の天覧試合は下宿先のテレビで見ました。一緒に下宿していた友人と弟と下宿のおばさんとで見ていました。長嶋選手がサヨナラホームランを打った時、阪神ファンの友人や弟には申し訳ない気がしましたが、「さすが長嶋」と大喜びした記憶があります。